

オークランド大学教育研修に参加して

教育学部英語教育コース 4 年 谷中愛梨

9 月 9 日 (月) から 11 日間、オークランド大学における教育研修に参加させていただきました。研修の内容は、オークランド大学の教育学部にて「ニュージーランドの教育制度」「異文化理解」などの特別講義、現地の学生と共に大学の講義に参加、幼稚園・小学校・中学校・高等学校の授業参観や検討会などでした。

オークランド大学における講義では、どの先生方も「子どもたちを主体とした授業」展開を心がけていることを強調されていました。授業中は、子どもたちが主役であり、先生はサポート役である。一見当たり前のことのように思えますが、自分の教育実習の経験を思い返してみると、子ども自身にもっと話す時間を与えるように、日々指導していただいていたことを思い出しました。

この「子どもたちを主体とした授業」を、学校視察で目のあたりにしました。高等学校の理科の授業を視察した時に、先生は説明を一方向的に生徒にするのではなく、子どもたちに質問し、その答えから新しく習う事項の説明を行っていました。また、小学校における算数の取り出し授業でも、授業のまとめを先生がするのではなく、子ども自身に語らせ、ノートに書かせていました。私たちが受けた大学の授業でさえも、教授の先生方は、学生に質問を繰り返し、発言の機会を多く設け、自主的な学びを促していました。子どもたちが主体的に学んでいくのを徹底的にサポートする先生方の姿が心に強く残っています。



小学校 1 年生授業風景

Tri-Uに参加して

教育学研究科 理数・生活系教育領域 2 年 加藤静香

2013 年 10 月 28 日から 11 月 1 日の 5 日間、私は第 20 回 3 大学ジョイントセミナー&シンポジウムに参加しました。短い期間ではありましたが多くのことを学ぶことができました。

参加者は 5 つのテーマ (Food, Population, Energy, Environment, ESD) をもとに各分野に分かれて研究発表を行います。自分のテーマ以外の研究発表に触れ、自分のテーマに

オークランド大学教育研修

「オークランド大学教育学部における教育研修」は、2011 年より始まった海外教育研修プログラムで、急速に教育改革の進んでいるニュージーランドで、自律的な学校経営、教員同士の協働的な職能開発、児童・生徒に応じた指導について直接見聞きしながら学ぶことを特色としています。本年度は第 3 回目に当たり、9 月 9 日-19 日に実施されました。今回の参加学生は 10 名で、引率には、この事業を開始された後藤太郎先生 (理科教育)、荒尾浩子先生 (英語教育)、佐藤年明先生 (学校教育)、外国人特任教員のジョン・トムセック III 世先生、および、三重 CST サポート室の小河久美さん (元地域連携室) の 5 名があたられました。プログラムには、ニュージーランドの教育事情に関する講義、オークランド市内の幼稚園・小学校・中学校・高等学校の授業参観と振り返り、およびオークランド大学教育学部の授業参加などがあり、充実した教育研修となりました。



大学にて

また、どの学校においても異文化理解教育がとても熱心に取り組まれている印象を受けました。視察させていただいた小学校 1 年生の教室には、マオリ語で色の名前が書かれたポスターや、世界各国の挨拶が掲示されていました。中学校でも同じように、廊下には生徒の絵とその絵に対応する日本語の掲示物が貼られていました。日本語の授業参観では、子どもたちは積極的に日本語を使って私たちに話しかけてくれました。ある子は、日本語は難しいけどとても好きと話してくれました。その表情はとてもキラキラしていて、私も日本の子どもたちに、こんな風に英語を好きになれるように努力していこうと感じました。

今まで語学研修に参加したことがありましたが、海外の教育機関を視察するのは今回が初めての機会でした。異文化理解教育や授業のスタイルなど様々なことを考える機会を持つことができ、とても貴重な体験でした。今回の経験を、4 月から始まる教員生活に活かしていきたいと思います。

3 大学国際ジョイントセミナー&シンポジウム

第 20 回 3 大学国際ジョイントセミナー&シンポジウムが 10 月 28 日から三重大学で開催されました。“The Role of Asia for Innovative Globalization”という全体テーマのもと、従来の「人口・食料・エネルギー・環境」という 4 つのトピックに加えて、三重大学が設定したトピック ESD (Education for Sustainable Development) に即して熱心な研究発表やポスター発表、ワークショップが行われました。アジアを中心に 8 カ国 20 大学から 100 名を超える学生・教職員が参加しました。5 日間の日程を終えて 11 月 1 日に成功裏に幕を閉じ、その盛会ぶりは新聞でも報道されました (11 月 9 日 [土] 付『朝日新聞』)。教育学部からは 2 名の院生が参加し、内 1 名は Best Presentation Award を受賞しました。

引き寄せながら考えることは、私にとって刺激的で、とても楽しい時間でした。来年から教壇に立つ私にとって、学び続ける姿勢や広い視野を得ることのできる最高の機会だったと感じています。小学校に入学してから今まで、そして来年からの職場も私の生活の大半の居場所は「学校」であり、その中に閉じこもってしまいがちな環境ではありますが、今回のような機会をいただき、外に踏み出すことの素晴らしさや重要性を発見することができました。

また、期間中の会話のほとんどは英語でおこなわれたため、普段は日本語でしか会話をする事のない私にとっては戸惑いもたくさんありましたが、たくさんの人と話をするうちに、新たに人と関わってコミュニケーションをとることの素晴らしさを改めて感じる事ができました。自分の考えや感じたことを言葉にして伝えることは難しいことですが、自ら発信していく意思を持っていることが大きな一歩になると実感できました。

今回の Tri-U は私にとって大きな挑戦であり、参加を決めてから終始不安がありました。しかし、一緒に三重大学から参加した仲間、陰で支えてくれる友達、そして期間中に会ったたくさんの参加者とのやり取りで、その不安も楽しさやうれしさに変化し、充実した時間となりました。ここで得た思い出や仲間は一生ものだと確信しています。この経験を生かし、今後の

自分や仲間の新しいチャレンジをみんなで楽しく作り上げていきたいと思っています。

慣れない英語での会話に苦戦しながらも、ハードな予定を一杯楽しく過ごすことができました。研究発表をはじめ期間中の様々な活動に参加するにあたりご指導していただきました先生方に心から感謝し、厚くお礼申し上げます。また、支えてくれたたくさんの仲間と Tri-U に参加されたすべての皆様に心から感謝いたします。ありがとうございました。



三重大学からの発表者と



三重大学練習船「勢水丸」による伊勢湾の海洋生物多様性研修航海



研究発表風景



フェアウェルパーティーにて

■ 人に出会うこと

教育学研究科 人文・社会系教育領域 1年 齋田有里

人と人が出会うこと

それがとても大切なのだ

肩書や所属なんか関係のないこと

どこに所属しているからダメだとか

どんな肩書を持っているからすごいとか

お面についての無意味な議論

その人に出会って見なければわからない

日本人、中国人、インドネシア人、タイ人…

ひとくくりにして論じる必要なんてない

情報で溢れかえっている世の中

いろんな価値観が織り込まれて発信される

それをどう受け取るのかは自分次第

そんな難しいことよりもまずは

「人」に出会って見ないか

国際化によって

国と国同士の関係ではなく

人が直接「人」にアクセスできるようになった

国内外を問わずまずは

「人」に出会って見ないか

大きなことを言うようだけれど

世界の平和と発展は

私たちのちっぽけな行いから始まるんでしょう

自分の価値観を信じて

人と出会って見ることをしてほしい